

一般社団法人 日本創傷外科学会

専門医試験

～筆記試験過去問題集～

第7回専門医試験

問題 1) 眼窩先端部症候群の症状に含まれない神経麻痺はどれか。

1. 視神経麻痺
2. 動眼神経麻痺
3. 滑車神経麻痺
4. 外転神経麻痺
5. 眼窩下神経麻痺

問題 2) 内眼角部の損傷について正しいものはどれか。

1. 涙小管は結紮しておく。
2. 内眼角靭帯の修復は行わない。
3. 内眼角間距離が広がっている場合は骨折を疑う。
4. 内眼角が鈍化している場合は顔面神経麻痺を疑う。
5. 涙小管が上下とも断裂すると涙液が分泌されなくなる。

問題 3) 顔面神経が茎乳突孔付近で損傷された場合、麻痺しない筋肉はどれか。

1. 頬筋
2. 咬筋
3. 口輪筋
4. 前頭筋
5. 広頸筋

問題 4) 四肢の皮弁と栄養血管の組み合わせで誤っているものを選び。

- | | | |
|------------|---|---------|
| 1. 橈側前腕皮弁 | — | 橈骨動脈 |
| 2. 腓腹皮弁 | — | 浅腓腹動脈 |
| 3. 外側上腕皮弁 | — | 尺側側副動脈 |
| 4. 後大腿皮弁 | — | 下殿動脈終末枝 |
| 5. 外側上外果皮弁 | — | 腓骨動脈穿通枝 |

問題 5) 手関節部背側伸筋とコンパートメント (区画) の組み合わせで誤っているものを選び。

- | | | |
|------------|---|------------|
| 1. 長母指外転筋 | — | 第1コンパートメント |
| 2. 長橈側手根伸筋 | — | 第2コンパートメント |
| 3. 固有示指伸筋 | — | 第3コンパートメント |
| 4. 総指伸筋 | — | 第4コンパートメント |
| 5. 小指伸筋 | — | 第5コンパートメント |

問題 6) 胸骨骨髓炎治療に用いられないものはどれか。

1. 大網
2. 大胸筋
3. 腹直筋
4. 広背筋
5. 僧帽筋

問題 7) 熱傷創の手術療法について正しいのはどれか。

1. Tangential excision は III 度熱傷創が適応である。
2. 筋膜上切除の長所は出血量が少ない点である。
3. 早期切除術とは受傷後 3 日以内に行う手術をいう。
4. 超早期切除術とは受傷後 24 時間以内に行う手術をいう。
5. Sequential excision は壊死組織拡大の防止に有効である。

問題 8) 電撃症について正しいのはどれか。

1. 交流よりも直流の方が組織損傷が強い。
2. 電気抵抗が高い部位ほど組織損傷が強い。
3. 電流の入口の熱傷は出口よりも損傷が少ない。
4. 神経や血管では遅発性の組織障害に留意する。
5. 血尿が見られた場合ヘモグロビン尿症を考える。

問題 9) 凍傷の治療について誤りはどれか。

1. 急速加温
2. PGE1 の動注
3. 高気圧酸素療法
4. 交感神経ブロック
5. 創部のマッサージ

問題 10) 糖尿病性足病変の重症度評価としてテキサス大学分類やWagner分類が一般的に用いられているが、これらの分類の中で評価項目として含まれないものはどれか。

1. 感染の有無
2. 虚血の有無
3. 潰瘍の大きさ
4. 潰瘍の深達度
5. 肉芽組織の量

問題 11) 表在静脈弁不全に伴う、静脈鬱滞性下腿潰瘍の治療法として適切でないものはどれか。

1. 高位結紮術
2. 下肢挙上安静
3. ストリッピング手術
4. 弾性ストッキングによる圧迫療法
5. 血管内カテーテルによる血行再建術

問題 12) 糖尿病性神経障害により現れる足部～下腿の変形として適切でないものはどれか。

1. Craw Toe 変形
2. シャルコー変形
3. ヘバーデン結節
4. Hammer Toe 変形
5. アキレス腱の短縮

問題 13) ケロイドについて誤りはどれか。

1. ケロイドの皮膚の肥満細胞は減少している。
2. 前胸部、肩部、恥骨部が好発部位である。
3. 皮膚割線に垂直な傷はケロイドになりやすい。
4. ヘパリン類似物質外用はケロイドに適応がある。
5. ハンセン病患者の知覚鈍麻部位にケロイドは少ない。

問題 14) ケロイドの放射線療法で、誤りはどれか。

1. 分割回数により効果に差がでる。
2. 総照射線量は癌治療よりも少ない。
3. 電子線は平坦でない複雑な曲面に適している。
4. 電子線の登場前は主に軟X線が使用されていた。
5. 電子線は設定により体表近くに線量を集中できる。

問題 15) 肥厚性癬痕について誤りはどれか。

1. トラニラストは有効である。
2. シリコンシートは有効である。
3. 一般に手術創を超えて拡大しない。
4. ステロイドの局注には懸濁液を使用しない。
5. 赤みを軽減するのにダイレーザーが有効である。